

Vietnam Practice 02

ベトナムを知ろう～日本と似ているところ、ちがうところ～

姫路市立花田小学校

玉田 亮太

■実践教科：総合的な学習の時間

■対象学年：小学校5年生

■指導時数：10時間

■対象人数：94人(3クラス)

◆教師海外研修を通して感じたこと

観光では絶対に行けない場所へ行けたことだけでなく、そこで懸命に働く人々の姿が印象的だつた。青年海外協力隊員をはじめとするJICAの方々や日系企業の方々、そして急成長しているベトナム企業の方々、どちらからも気概を感じた。また、ベトナムの学生からは日本人の学生にはない強い向上心を感じることができた。急速に発展しているベトナムの勢いや活力を感じることのできた海外研修だった。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

私自身、ベトナムについての知識がほとんどなかつたので、今思えば、アジアの中の途上国のひとつで「何だかよくわからない国」としか考えることができていなかつた。

◆ベトナム籍児童と接するときも、それほどベトナムの風習や考え方を意識していなかつた。

◆知識としては世界とつながっていることは知つても、日々の生活の中で実感として感じたり意識することはそれほどなかつた。

AFTER

実際にベトナムを体験すること、特に観光では行けないところに行き、現地の人と交流できたことは大きな経験だった。ベトナムの風土、文化、そして人々の生活に触れることで、同じ東アジアに生きる者同士が深くつながっていることを感じることができた。

◆ベトナム籍児童と接するときに、ベトナムの風習や考え方を以前より意識するようになった。

◆日々の生活の中でも、世界とのつながりを以前より意識するようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践的目的/背景

本校は、特にベトナム籍児童が多く、1割が外国籍児童である。日本生まれや幼い頃から日本で生活している者も多く、外国籍児童支援教室もあり、高学年になると日常生活で大きく支障をきたすことは少ない。また、日本人児童とも幼い頃からいっしょに生活しているため、日本人・ベトナム人の区別無く仲良く生活できる。

しかし、児童同士のトラブルが起こったときは「ベトナムやから」「ベトナムへ帰れ」といったセリフを聞くことがある。さらに、知らず知らずのうちに日本人児童が日本的な考え方、文化、価値観を一方的に押しつけている場面がある。このような場合、外国籍児童は自己の思いや意見を出せないままの場合が多い。尋ねてみると「もっとベトナムについて知ってほしい」という願いを多くのベトナム籍児童は持っている。また、日本人児童もベトナム籍児童と幼い頃からいっしょに生活していてもベトナムについてほとんど知らず、テレビなどで得た偏った知識しかない。

そこで、まず料理・衣服・街の様子など児童が興味関心をもちやすいことからベトナムについての理解を深めさせていく。次に、児童自身にテーマを設定させ、調べてさせていく中で日本と似ているところ・ちがうところに気づかせ、考えさせる。ベトナムの文化や考え方について正しく理解させていくことで、誤解や偏見をなくし、お互いに尊重していくとする態度や意識の育成を目的とする。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 ベトナムを知る①	①ベトナムについて知っていることを発表する ②ベトナムと日本の概略を比べる(位置、面積、人口) ③ベトナムの国旗やあいさつを知る ④写真を見て、日本とベトナムどちらの写真か考える ・ベトナムの街の様子(建物、交通事情、市場、料理、衣服など) ・学校の様子(子ども、先生、教科書など)	・世界地図(PC) ・ベトナム地図(PC) ・写真(PC) ・ワークシート ・ベトナムの教科書 ・ベトナムの紙幣 ・ベトナムのマンガ
2時限目 ベトナムを知る②	ベトナムと日本のつながりを見つける ①ベトナムの街から ・日系企業の看板の写真 ・日本製品(バイク、味の素、お菓子など) ・街の中の日本語 ②日本の街から ・ナイキの服から ・スーパー・マーケットの食材から (ブラックタイガーや冷凍食品)	・写真(PC) ・ベトナムの味の素 ・お菓子 ・ナイキのジャージ ・ワークシート
3時限目 ベトナムを知る③	ベトナムと日本のつながりを知る (青年海外協力隊員の活動から) ①日本の援助で作られたもの(空港、病院、学校、道路など) ②交通事情改善への協力(高木隊員、秋山隊員) ③障害孤児施設への協力(井上隊員、長畠隊員)	・写真(PC) ・DVD 「知花くららの地球サポート」 ・ワークシート

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4時限目 テーマを設定する	「文化」「製品」「人」の3つの大きなテーマの中から一つ選び、その中からさらに詳しく調べていきたいものを設定する	・ワークシート
5~7時限目 ベトナムを調べる	各自で設定したテーマについて、書籍、インターネット、インタビューで調べる	・書籍
8時限目 ベトナムを知る④	ゲストティーチャーとしてベトナム人のポンさんを招き、話を聞いたり、質問したりする ①ベトナムについて ②来日して困ったこと ③似ているところ、ちがうところ	・写真 ・アオザイ
9~10時限目 ベトナムについてまとめる	各自で調べたことを新聞形式にまとめる	・ワークシート

2. 授業の詳細

1時限目 「ベトナムを知る①」

■目標

○ベトナムについて知り、日本とのちがいを見つける

■内容

- ①ベトナムについて知っていることを発表する。
- ②面積や人口など概略について、日本とどちらが大きいか比べる。
- ③ベトナムの国旗やあいさつを知る。
- ④写真を見て、日本とベトナムどちらの写真かを考える。

<ココがポイント>

ベトナムについての知識は個人差が大きかったが、クイズ形式で出題したり、バイクの大渋滞の写真やドラえもんなど意外性のある資料を提示したりすることで、どの子も興味をもって取り組むことができた。



多数のバイク



書店に並ぶ書棚いっぱいの「ドラえもん」のマンガ本

■児童の感想

- ◆日本では車の方が多いのに、ベトナムではバイクがすごく多いのでびっくりしました。
- ◆ベトナムの学校の教科書はすごく難しそうで、ベトナムの子はがんばっているのだと思いました。
- ◆お店で食べ物がつままれていないのが、日本とちがうところだと思いました。
- ◆あまりベトナムにいいイメージはなかったけど、ちょっと行きたくなりました。

◎所感

事前にベトナムのイメージや知っていることを書かせると、「臭いがきつい」「あまり行きたくない」などネガティブなイメージを持っている児童がほとんどだった。知っていることも、「生春巻き」「暑い」「バイクが多い」などであった。ベトナムについてほとんど知らないことが、誤解や偏見の原因の一つだと感じることができた。ベトナムの写真を子どもたちは興味をもって見ており、感想にも「今まででは行きたくなかったけど、少し行きたくなつた」と書く児童も少なくなく、まずはベトナムのことを正しく知らせることが大切だと実感した。

2時限目 「ベトナムを知る②」

■目標

○ベトナムについて知り、日本との物のつながりを知る。

■内容

フォトランゲージで、ベトナムと日本とのつながりを見つける。

①ベトナムの街から

- ・日系企業の看板の写真
- ・日系企業の製品(バイク、味の素、お菓子など)
- ・街の中の日本語

②日本の街から

- ・ナイキの服から
- ・スーパー・マーケットの食材から(ブラックタイガーや冷凍食品)



街にある日系企業の看板



日本企業の製品(ガム)

◎児童の反応

- 日本とベトナムはほとんど関係がないと思っていた児童が多かったので、見たことのある企業や製品を見て驚いていた。
- 着ている服のタグを見て調べるなど、身近なものの中にベトナム製品をさがそうとしていた。

■児童の感想

- ◆日本とベトナムは全然ちがう国だと思っていたけど、似ているところや同じものがたくさんあってびっくりしました。
- ◆バイクだけでびっくりしたけど、そのバイクがホンダやスズキで日本の会社のバイクが多いことにさらにびっくりしました。
- ◆私はベトナム人だけまだ知らないことがたくさんありました。今日は今まで以上にベトナムについて知れたのでよかったです。
- ◆お鍋のエビがベトナム産だと知っておどろきました。

◎所感

社会科の教科書にはアメリカや中国との関係は書かれてもベトナムとの関係は書かれていないため、児童もほとんど関係ないと思っていたようだった。しかし、ベトナムでの日系企業の写真や日本国内でのベトナム産製品を提示していくと、児童は身の回りの物がどこから来ているのか調べ始めた。ベトナムとのつながりはもちろんのこと、これをきっかけに世界とのつながりを今後も少しでも意識して欲しいと思う。

3時限目 「ベトナムを知る③」

■目標

- ベトナムについて知り、日本との人のつながりを知る

■内容

ベトナムと日本のつながりを知る。
(青年海外協力隊員の活動から)

- ①日本の援助で作られたもの
(空港、病院、学校、道路など)
- ②交通事情改善への協力
(高木隊員、秋山隊員)
- ③障害孤児施設への協力
(井上隊員、長畑隊員)



空港のタイル



井上菜々子さん

<ココがポイント>

内容的に小学生にはやや難しかったが、番組で取り上げられている井上さんと海外研修で会うことができたことを知らせると、子どもたちは少し身近な人としてとらえ真剣に話を聞いていた。

◎児童の反応

ほとんどの児童がベトナムに日本が支援していることを知らなかったが、「他にどんなことをしている人がいるの?」と特に協力隊員の活動に興味をもつ児童もいた。

■児童の感想

- ◆何百億円もかけて日本が空港をつくったことを初めて知りました。ぼくたちの知らないところでつながりがあることを知りました。
- ◆井上さんの「教えるのではなく、自分の働く姿をみてもらう」ということが大切なんだとわかりました。
- ◆まさかスピード違反のとりしりの方法まで教えているとは思いませんでした。他にどんな協力をしているのか知りたくなりました。

◎所感

青年海外協力隊員の活動など小学校5年生にはやや難しい内容だったが、興味をもってみている児童がたくさんいた。児童の多くは「何でそんなことができるの?」「何の得があるの?」と疑問をもっていた。イチローや石川遼などのスーパースターだけでなく、日本人の中にはこんなにもがんばっている人がたくさんいるのだということや彼らの人としての生き方をこれからも少しでも多く学んでほしいと思う。

4～7時限目 「テーマを設定し、ベトナムを調べる」

■目標

- 書籍やインターネットを用いて、ベトナムについて調べる

■内容

- ①「文化」「製品」「人」の3つの大きなテーマの中から一つ選び、その中からさらに詳しく調べていきたいものを設定する。
- ②各自で設定したテーマについて、書籍、インターネット、インタビューで調べる。



児童の様子

◎児童の反応

- 全体的に興味をもって取り組むことができ、家で調べてくる児童もいた。
- 調べていく中でベトナム籍児童に質問する児童が多く、親切に答える姿が見られた。またベトナム籍児童もわからないことを保護者に聞き、クラス全体に広める姿も見られた。

◎所感

調べていく中でベトナム籍児童に「これはベトナムではどうなん？」と質問する児童の姿も多くみられた。質問された児童もうれしそうに答えていた。また、これまでベトナムのことを尋ねられても言いたくないのか話をそらしていた児童も少しずつベトナムのことを話すようになる姿が見られた。調べていくことでベトナムに親しみをもつ児童が増えていったからだと感じた。これからも、お互いの文化に興味関心を持ち続けてほしいと思う。

8時限目 「ベトナムを知る⑧」

■目標

○ベトナムについて、日本と似ているところ・ちがうところを知る。



授業の様子(フオンさん)

■内容

ゲストティーチャーとしてベトナム人のフオンさんを招き、話を聞いたり、質問したりする。

- ①ベトナムについて
- ②来日して困ったこと（病院で、仕事で、買い物で）
- ③似ているところ、ちがうところ（あいさつ、言葉、マナー、行事：お正月や獅子舞など）

◎児童の反応

- 子どもを病院に連れて行くと病気や薬の言葉が難しく困ったという具体的な話を聞くことができたので、子どもたちも「私らでも病院の言葉って難しいのに、外国でなったら困るわ」と共感しながら聞くことができ、他にもいろいろ困ることがあることがあるのではないかと考えることができた。
- テト（ベトナムの正月）の話では、ベトナムにもお年玉・ムーラン（獅子舞）・お餅があることなど似ているところがたくさんあることに興味をもち話を聞くことができた。特に、ベトナムにも縁起物があることを知り、日本のおせちの中の縁起物と比べて考えるなど、日本の文化を見直す児童も多数いた。
- ベトナム籍児童も曖昧にしか知らなかったテトの意味を知ることができ、テトの過ごし方を紹介する姿も見られた。

■児童の感想

- ◆おもに、豆や肉やココナッツが入っていることにびっくりしました。でも、共通点もあります。ムーランやお年玉、コマもあります。似ているところ、ちがうところそれあるんだなどとフオンさんの話を聞いて感じました
- ◆ベトナムと日本は全くちがう文化だと思っていました。ベトナムにもお正月など日本と同じものがあることを知りました。ベトナムに興味がわいてきました。もっともっとベトナムのことを調べたくなりました。
- ◆お正月に日本人が食べるおせちと同じようなものをベトナムでも食べることを初めて知りました。しかも、ベトナムのことを知れたのと同時に鏡もちのミカン（橙）の意味など日本のこととも知ることができ楽しく勉強することができました。

◎所感

日本に長く住まわれている方だったので、日本と似ているところ・ちがうところをわかりやすくお話していただくことができ、児童も次から次へと質問をしていた。冬休み前ということもあり、特にお正月の話題では、お年玉からおせち料理まで詳しく教えていただくことができた。授業が終わった後の休み時間に質問する児童もいた。日本人児童だけでなく、ベトナム籍児童も各家庭でしている風習の意味を質問し、ベトナムの南北で風習が異なることなどを教えていただき満足げにしていた。もう一度ちがうテーマでお話をしていただく機会を考えていきたい。

9・10時限目 「ベトナムについてまとめる」

■目標

○調べたことをもとに、ベトナムについてまとめる

■内容

各自で調べたことを新聞形式にまとめる。



児童の様子

◎児童の反応

- 調べていく中で、ベトナムも中国の影響を受けているので日本と似ているのではないかと中国の衣服を調べるなど意欲的に活動する児童も見られた。
- 調べ、まとめていく作業の中で、ベトナムに対してネガティブなイメージを持っていた児童もベトナムの良さを見つけたり、日本にはない特徴に気づいたりすることができた。

■生徒の感想

- ◆わたしは調べていく中で、外国に行くならベトナムに行くと決めました。ベトナムのいいところをたくさん見つけることができてよかったです。
- ◆ぼくはチーチーチャインチャインというベトナムの遊びを知りました。みんなでやってみたいなと思いました。
- ◆ベトナムについて調べていくことで、私たちはベトナムについて今まで全然知らなかったということがわかりました。もっと知らなければと思うし、調べていこうと思います。
- ◆ベトナムの遊びを調べていくと、似ている遊びがたくさんあることに気づきました。でも、かけ声がちがったり、細かなルールがちがったりどちらかがいいがあることにも気づきました。これからも外国の遊びを調べていきたいです。

◎所感

当初は、ネガティブなイメージの方が大きかったが、調べたり新聞にまとめたりしていく中で、児童はベトナムの良さや特徴を見つけまとめることができるようになった。教師の側から一方通行に教え込むのではなく、児童自らがテーマを設定し、そのテーマに沿って調べていくことが、児童の興味関心を高めたからだと感じた。今後も児童の興味関心をうまく高めつつ、ベトナムに対する理解を深めさせていきたい。

3. 成果と課題

本校のように、在籍児童の1割が外国籍で幼いころからいっしょに生活している場合でも、成長するにつれて差別的な言動が見られる。それは、ベトナムは貧しい国であり、日本に援助される国というイメージが、いつの間にか子どもたちに植え付けられていくからだと感じてきた。本実践では、そういう偏った考え方ではなく、①自分たちとはちがう考え方や文化を知る楽しさ、②その国がもつ文化の豊かさやそこで生活する人々の活力、③実は様々なところで世界の国々はつながりがあること、この3つを児童に気づかせたり考えさせたりすることに重点を置いた授業構成とした。

事前調査では、ベトナムに対して「行きたくない」「きたない」「においがきつい」という考え方をもつ児童も少なくなかった。しかし、私が海外研修で感じたことや知ったことを伝えたり、児童自らがベトナムについて調べたりしていくことで、ベトナムの良さや特徴を見つけることができていったように感じる。「ベトナムなんかキレイ」と言っていた児童が家で熱心にアオザイについて調べて来てそれをうれしそうに紹介する姿や、これまでベトナムのことについて尋ねても「知らん」としか答えなかつたベトナム籍児童が「○○やで、お母さんにも聞いてみるな」という姿が見られた。このような変容がでてきたことは、非常に良かったと思う。

しかし、まだ児童の言動の中には残念なものが少なくなく、継続した国際理解教育の取り組みの必要性を感じた。授業時間数の確保が難しいがこの実践をきっかけとして、今後もベトナムやその他の国についても学習する機会を設定していき、誤解や偏見をなくし、お互いに尊重していこうとする態度や意識の育成につなげていきたい。

参考資料

【書籍】

- サイモン・スクーンズ「世界の家族2 ベトナム」すずき出版 2000年
吉田 忠正「世界の国々17 ベトナム」ポプラ社 2007年
吉田 忠正「世界各地のくらし23 ベトナムのくらし」ポプラ社 1997年
メアリー・M・ロジャース「目で見る世界の国々27 ベトナム」国土社 1995年
銀城 康子「世界の食事13 ベトナムのごはん」農山漁村文化協会 2008年

【映像】

- TV東京 DVD「知花くららの地球サポーター ベトナム編」

【webページ URL】

- 「JICA」<http://www.jica.go.jp/>
「知花くららの地球サポーター」<http://www.tv-tokyo.co.jp/chikyu-s>